

えんど久子前市議など生活と健康を守る会 大分県と話し合い

12市町村で中学生まで通院無料

11月21日、生活と健康を守る会は大分県と交渉しました。県下から参加した会員らが要望書にもとづき県の各担当者と話し合いました。

3分の2の市町村で実施

子どもの医療費助成制度は長年の運動で少しずつ改善され、今では、中学生までの通院が県下18市町村の内12市町村で無料になっています。

えんど久子県議予定候補は「子どもの貧困は6人にひとり」と深刻で、必要な受診を我慢している例も多い。大分県として中学生までの通院無料を実施すべきだ」と発言。県の担当者は、財源の確保や市町村の意向、医療提供体制への影響を理由にあげて実施しようとしません。

別府市独自では難しい

「市町村が県が実施しては困ると言っているのか。別府市は市独自では難しいと言っている。県が実施すれば市町村もありがたい。必要以上に受診すると言うがデータがあるのか」とえんど久子前市議。県の担当者は、具体的な根拠やデータは示せません。「根拠もなくやらない理由をあげるのではなく、要望に応えてほしい」と強く求めました。「県下で実施している市町村に住む子どもは3割。未実施が7割」との県の説明です。実現のために力をあわせ署名を広げ、声を上げましょう。



中央はえんど久子前市議、右端は堤栄三県議（大分市選出）
2017.11.21.

低所得者へ夏季手当を

日田市の会員さんは、「39度もの猛暑日が続くが、クーラーを1時間しかつけず辛抱している」「暑くて眠れず寝る前に水をかぶる」など深刻な実態を訴え、県の施策として低所得者への夏季手当の新設を、と強く求めました。

また、差し押さえの実態を訴えて国保税の引き下げを求めました。介護保険料・利用料の負担軽減、就学援助の充実なども求めました。

日本共産党 県政ニュース

別府市石垣西8-2-31
日本共産党北部地区委員会
発行責任者 えんど久子
Tel.0977-22-6576

No.12
2017.11.26.

えんど久子ら 別府市と話し合い

介護サービス切り捨て中止を

11月28日、えんど久子前市議は、社会保障要求自治体キャラバンで、年金者組合や生活と健康を守る会など各団体のみなさんと一緒に、別府市と話し合いました。

要介護1・2の 在宅サービスがピンチ

介護保険の問題では、国は要介護1・2の240万人の在宅サービスを保険給付から外す計画です。すでに要支援1・2の176万人の在宅サービスは保険給付から外されているため、要支援・要介護と認定されている人の65%が保険給付の枠外に置かれてしまうことになりま

す。この問題について参加者から意見が出され、えんど久子はこの計画を中止するよう国に求めるべきだと訴えました。

別府市の高齢者福祉課長は「その方向で担当課長会議で協

国保税を2割の世帯が滞納

国民健康保険の問題では、別府市の国保加入世帯20671世帯の内2割を超える世帯が滞納があると回答。

子育て世帯の国保税の負担を軽くすること、国の負担を増やすことなどを求めました。今年

6月に全国市長会として、国の財政支援の拡充・子育て世帯の負担軽減などを要請したことを回答しました。

来年4月から都道府県の国民健康保険の運営主体が移ることについても話し合いました。



上の写真は別府市に訴えるえんど久子。

右の写真は各団体の参加者と別府市の担当者（後ろ姿）。

2017. 11. 28.
別府市役所にて